

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2671400261
法人名	株式会社 エバカラー
事業所名	エバホーム
所在地	〒619-0215 京都府木津川市梅美台2丁目1-1 (電話) 0774-71-8337

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年4月6日	評価確定日	平成22年5月13日

【情報提供票より】(平成22年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	5.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3 階建ての 2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有(40万円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または 1日あたり 1800 円			

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2		0 名	
要介護3	1 名	要介護4		3 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 85 歳	最低	82 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院 大森クリニック 富田歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都府最南部、奈良県に接して建っているグループホームであり、3年前に運営者が変わり、併設のグループホームと兄弟法人になっている。現管理者は1年前の就任であり、職員の質をあげることと明るいホームにしたいという思いで運営している。地域との関係は良好で、来訪者があり、小中学生の体験学習を受け入れている。家族の面会も多く、運営への協力も得られている。職員は常勤も非常勤も含めて明るく、意欲的な人が多く、積極的に自分の意見や提案をしながら、楽しく業務に励んでいる。優れた取組として次の3点が挙げられる。①「気付きノート」に毎日1点を記入し、他の職員はそれを読んでコメントを書く。②事故報告書やヒヤリハット報告書にもすべての職員がコメントを記入する。③家族に送付する「一言たより」も職員が書く。こういった取り組みにより、職員が書くことに慣れるとともに、書くことにより考える訓練になっており、いずれは優れたケース記録が書けると期待される。現在利用者は5人(1人入院)で全員女性、全員実子がなく、お嬢様育ちという偶然が重なっており、ゆったりとした暮らしをしている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の評価以来の改善点としてはアセスメントの書式の変更、気付きノートの取組、事故報告書にコメントを書くことなどの改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価のために全職員に評価票を配布し、読んでもらい、意見を聞いている。むずかしいという感想である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、地元代表、民生委員、木津川市高齢福祉課職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは丁寧な報告をしており、意見や提案を受けている。建物が硬い印象で会社のように見えるという意見により、木製の表札を掛け、近所の人が来訪してくれるようになったり、お雑煮の餅は米粉の団子や豆腐と白玉粉でつくった団子なら安心との提案をいただいたりしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に参加した家族から種々の意見が出されている。毎日の介護には満足しているが、会社の方針が聞きたいとの声があり、家族が会長から直接方針を聞く会が開催されている。レクリエーションのこと、外出の機会を増やしてほしい等、意見に対応している。クリスマス会、夏祭り、年4回の試食会等の際に家族は来訪し、互いに交流している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域の行事には参加している。近くの保育園は年間行事に招待してくれており、保育園児が来訪して歌を歌ってくれることもある。小学生・中学生の職業体験学習や福祉体験学習を受け入れている。近くの子どもたちを対象におしゃみや万華鏡をつくる工作教室を開催している。金魚すくいやヨーヨー釣り、たこ焼き、花火などのホームの夏祭りには地域住民が参加してくれる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	理念は「少人数だからこそできる快互」であり、ホーム内に掲示している。利用者や家族には契約時に説明している。隔月に200部発行し、地域に配布している法人の広報誌『フレンド通信』には理念とともにグループホームの様子や考え方を書いている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践にむけて目標を毎年立てている。今年は「個別ケアのための情報の共有」であり、その手段として「気付きノート」をつくっている。このノートに職員が毎日1点以上の「気付き」を書き、読んだ職員がコメントを書くという取組である。このことにより、他の人の気付きに気付くという認識が深まっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事には参加している。近くの保育園は年間行事に招待してくれており、保育園児が来訪して歌を歌ってくれることもある。小学生・中学生の職業体験学習や福祉体験学習を受け入れている。近くの子どもたちを対象におじゃみや万華鏡をつくる工作教室を開催している。金魚すくいやヨーヨー釣り、たこやき、花火などのホームの夏祭りには地域住民が参加してくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価のために全職員に評価票を配布し、読んでもらい、意見を聞いている。むずかしいという感想である。昨年の評価以来の改善点としてはアセスメントの書式の変更、気付きノートの取組、事故報告書にコメントを書くことなどの改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地元代表、民生委員、木津川市高齢福祉課職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは丁寧な報告をしており、意見や提案を受けている。建物が硬い印象で会社のように見えるという意見により、木製の表札を掛け、近所の人から訪してくれるようになったり、お雑煮の餅は米粉の団子や豆腐と白玉粉でつくった団子なら安心との提案をいただいたりしている。		

京都府:グループホーム エバホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは連携をとっている。市にはグループホームが3事業所あるが、事業所連絡会は作られていない。市は認知症サポーター研修を実施していない。奈良県と隣接している地域であり、奈良の行政が地域住民を対象に開催する認知症やグループホームについての研修会の講師を引き受けている。	○	認知症サポーター研修や認知症介護相談等の地域住民向けの研修会や相談会などを木津川市に開催するように働きかけて講師等を担当し、グループホームの専門性を地域貢献することが望まれる。
4.理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎週来る人から毎月来る人まで、家族の面会は多く、その際に情報交換している。カラー写真が数多く載っている『エバホーム通信』を毎月発行しており、家族からは好評である。また利用者の様子を詳しく書いた「一言便り」を毎月家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加した家族から種々の意見が出されている。毎日の介護には満足しているが、会社の方針が聞きたいとの声があり、家族が会長から直接方針を聞く会が開催されている。レクリエーションのこと、外出の機会を増やしてほしい等、意見に対応している。クリスマス会、夏祭り、年4回の試食会等の際に家族は来訪し、互いに交流している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として新規事業所を増やしている段階なので、社員の異動は避けられない状況であるが、この1年は大きな異動はなかった。社員が異動してもダメージがないように、非常勤職員の研修に力を入れている。非常勤職員が働きやすい職場にするために、シフトの工夫、希望休には応じるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に新人会議、主任会議、サブリーダー会議、社員会議があり、会議と研修が実施されている。主任会議では、認知症、身体拘束、プライバシー、感染症及び食中毒、倫理、パーソンセンタードケア等のテーマで研修が実施され、各職場で伝達研修している。資格取得について研修し、支援している。一人ひとりの職員はチェックリストにより振り返り、上司と面談し、目標設定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人は奈良県での第1号のグループホームを開設し、会長は奈良県グループホーム連絡協議会を立ち上げ、交流や研修を実施している。職員は他のグループホームを見学したり、交流したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
自で					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には見学や試し利用、試し宿泊も受け入れている。利用が決まれば、利用者の居宅を訪問面接し、利用者が使い慣れている馴染みのものをもって来るように働きかけている。入居されてからは、職員の声かけ、表情が大事であり、利用者の思いを先読みして対応するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争のことや万博に行ったことなどの体験は利用者からじっくり聞いている。昔流行った歌には利用者は愛着があることがわかる。利用者が高齢で認知症であろうと、自分をしっかりもって生きていることから、職員は多くのことを学んでいる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用したい人には「入居希望相談書」に記入してもらい、利用が決まれば管理者とケアマネジャーが訪問面接し、医療情報や介護情報を収集し、主に身体状況を中心にアセスメントしている。詩吟が趣味、洋裁の腕はプロ級、料理は得意等、好きなことや趣味は聞いているが、生活歴の情報は少ない。	○	利用者の生活歴は本人や家族から、機会あるごとに聞いており、かなりのj情報が把握されているので、記録を整理することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居1カ月後くらいに職員の意見もふくめて介護計画を作成している。介護計画は身体状況の介護が主であるが、「役割をもってもらう」等の生きがいのある生活を支援する内容も含まれており、利用者それぞれに個別の計画になっている。上記の生活歴等の情報を反映し、具体的なものにすることが期待される。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の毎日のケース記録は介護計画の項目に沿ったものではなく、行動記録になっている。ケア会議が実施され、記録が残されているが、身体状況の検討に終始しており、介護計画の各項目についての話し合いになっていない。介護計画の評価が実施されているが、その根拠が記録から確認できない。	○	ケース記録は介護計画の項目にしたがって記録に残し、介護を実施したかどうか、実施したときの利用者の表情や発言、拒否などで実施できなかったときの理由などの考察を書くこと、ケア会議は介護計画の項目ごとに検討し、評価し、記録に残すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は毎月来訪してくれる移動美容室を利用しており、カット、カラー、パーマなどをしてもらっている。以前はきれいなパープルにカラーしていた人もいた。近くの大きなショッピングセンターにはウィンドーショッピングや喫茶など、利用している。併設のグループホームとは行事などを一緒にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はホームの協力医療機関である大森クリニックを受診しており、職員が同行したり、毎月2回の医師の往診を受けている。内科医であり、24時間オンコールに応じてもらっている。認知症についても相談している。歯科医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には、希望によりターミナルケアに応じること、グループホームでできないときは有料老人ホームの「手厚い介護棟」を紹介すること等を口頭で説明している。終末期になったときには家族と医師を交えて指針を説明し、同意をもらっている。利用者や家族は最期までお願いしたいという希望が多い。職員はお世話したいという思いをもっており、看護師による職員研修を予定している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室やトイレはなかから鍵をかけることができる。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の早い人は4時くらいから起き、7時くらいまで寝ている人もいる。たわると部屋に引き上げる人が多い。以前は毎朝お化粧していた人や1日に何度も犬の散歩に出かけが人がいた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米、野菜、肉類等は毎週配達してもらっており、冷蔵庫の食材と利用者の希望により、その日に献立をたて、調理している。利用者は玉ねぎの皮むき等をしている。足りない食材を利用者と買いに行く日もある。雪なべなどの鍋料理も楽しんでいる。野菜を多く使った和風献立である。月1回くらい、レストランや回転すし店で外食をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を目標に支援しており、毎日入りたいという希望にも対応している。入浴は夕方時間帯であるが、利用者が入りたいという希望があったときにも対応している。家庭風呂より少し広めの浴室で、マンツーマンの介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、食卓拭き等を利用者が行っている。汚物処理に使うため新聞紙を折る作業も利用者に頼んでいる。カレンダーや紙芝居、鬼の面などを作ったり、早口言葉、ことわざ、カルタ、ビンゴ等のゲームをしたり、エレクトーン、フルート等の演奏を聴いたり、フラワーアレンジメントを楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や食材の買い物は毎日のように出かけている。青山の公園でのお花見、大仏殿へのみみじ狩り、般若寺でのあじさい見物等季節のお出かけやドライブには毎月のように出かけている。高の原駅前のイオンには買い物レクリエーションで出かけ、ゆっくり過ごしてくる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉、玄関ドア、エレベーター、非常口等、日中はすべて施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器は備えているが、通報機とスプリンクラーは今後の予定である。防火管理者がおり、消防計画を立て、避難訓練は夜間想定もふくめて実施している。消防署の立会いや地域の人々の参加がある訓練も実施している。食料他の備蓄を備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
階					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録を残している。献立のカロリー値や栄養バランスについて、法人の管理栄養士がときには点検してくれているが、記録は残されていない。	○	利用者の体調管理には食事は大きな要素なので、献立について栄養士に点検してもらい、コメントを残しておくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	かわいい門扉と木製の表札、プランターに植えたパンジーの花が、四角いビルを柔らかい雰囲気になっている。玄関ロビーには観葉植物の鉢とベンチを置いている。居間兼食堂には組み合わせ自在の食卓と椅子、ソファ、テレビ、大きな食器棚と冷蔵庫、本棚等を置いている。食卓にはガラス瓶に桃の枝を挿している。壁には利用者がつくった季節のちぎり絵、一人ひとりが年初の誓いを書いた虎の絵馬、利用者の似顔絵の大きな貼り絵などを貼っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉には陶器製や木製の手作りの表札を掛け、廊下の雰囲気と和らかくしている。ベッド、ダンス、整理棚、衣装ケース、衣装掛け、椅子等が持ち込まれている。絨毯を敷いてマットレスで寝ている利用者もいる。棚の上などに好きな人形をいっぱい飾っている人、ぬいぐるみに凝っている人、鏡を置いてお化粧する人、自分が輝いていたときの写真を飾っている人、誕生日にもらった寄せ書き、ドライフラワーの額などを壁に掛け、利用者の個性が溢れている。		